

## 管内養豚場における豚熱ワクチン追加接種の効果検証及び今後の指導方針

茨城県県北家畜保健衛生所

○大庭彩 栗田敬介

農林水産省との一括協議により豚熱ワクチンの2回接種を実施していた管内一貫養豚場（母豚400頭規模）において、1回接種群と2回接種群について免疫付与状況確認検査を実施し、その効果を検証。接種日齢は1回接種群では25日齢、2回接種群では10～15日齢及び30～35日齢に設定。対象は中和抗体価が32～256倍の母豚5頭とその子豚各5頭とし、30日齢から150日齢まで月1回の追跡調査を実施。その結果、150日齢における中和抗体陽性率は1回接種群で100%、2回接種群で70%、中和抗体価は1回接種群で2～256倍、2回接種群で<1～16倍であり、2回接種群と比較して1回接種群で有意に抗体陽性率の上昇を確認（ $p<0.01$ ）。追跡調査結果から1回接種群の成績が良好であったこと、母豚の中和抗体価にバラツキが少ないこと、分娩舎で子豚を50日齢まで飼養できること等の理由から、ワクチンの1回接種が可能と判断。一方、農場の10キロ圏内に豚熱陽性の野生イノシシが複数確認されているため、カメラ設置や定期的な石灰散布等の野生動物侵入防止対策の強化に加え、所有者や市と連携し、農場敷地内を横断する市道の払下げ・占有に向けた協議を実施。今後は、年2回の免疫付与状況確認検査及び定期的な立入検査による飼養衛生管理基準の遵守状況確認・指導継続を条件に豚熱ワクチン接種回数を1回とする。